

市町村名	北中城村							
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	1-①	北中城まつり活性化事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(2)-ウ		
担当部課名	企画振興課	事業実施(予定)年度	平成24～令和13年度		沖縄振興基本方針該当箇所	多彩かつ質の高い観光の推進		
事業内容	北中城村まつり活性化委員会に対して「令和6年度北中城村青年エイサーまつり」、「第39回北中城まつり」の開催を支援し、観光誘客を図る。また本村の観光資源となりうる伝統芸能の担い手不足解消のため、伝統芸能プログラムを中心におこない、多くの方に魅力を発信することで伝統芸能の継承を図る。							
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)							
実施方法	■直接実施 □委託 ■補助 □負担 □その他()							
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	16,744	16,861	16,927	20,540	22,290	
		(b)予算現額	465	18,838	15,830	20,540	22,290	
		(c)増減額(b-a)	▲ 16,279	1,977	▲ 1,097	0	0	
		(d)繰越額	0	0	0	0	0	
		A. 計(b+d)	465	18,838	15,830	20,540	22,290	
	B. 執行済額		463	10663	15,933	18,104	20,395	
	うち交付金充当額		370	8,530	12,746	14,483	16,316	
	次年度繰越額		0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)		99.6%	56.6%	100.7%	88.1%	91.5%	
予算の状況の説明		「第39回北中城まつり」及び「令和6年度北中城村青年エイサーまつり」を開催し、計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。 不用額1,894千円は補助金返還によるもので、まつり運営にかかる費用が当初の見込みを下回ったことによる。						
活動目標(指標)及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況					
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度		
	まつりの開催支援 青年エイサーまつり: R6年10月開催		目 標	(開催支援)	(開催支援)	(開催支援)	(開催支援)	
			実 績	開催支援	開催支援	開催支援	開催支援	
	まつりの開催支援 北中城まつり: R6年10月開催		目 標	(開催支援)	(開催支援)	(開催支援)	(開催支援)	
			実 績	開催支援	開催支援	開催支援	開催支援	
達成状況説明	「第39回北中城まつり」及び「令和6年度北中城村青年エイサーまつり」を令和6年10月12日(土)と10月13日(日)に北中城村しおさい公苑を会場として開催し、計画通り支援を実施できた。							
成果目標(指標)及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)	
	青年エイサーまつり来場者数		目 標	()	(6,400人)	(6,600人)	(9,800人)	()
			実 績		21,826人	25,832人	26,420人	
	北中城まつり来場者数		目 標	()	(24,000人)	(10,100人)	(12,100人)	()
			実 績		25,806人	13,480人	12,430人	
	進捗状況説明	「第39回北中城まつり」及び「令和6年度北中城村青年エイサーまつり」を開催し、来場者数は北中城まつり、青年エイサーまつり共に目標値を達成することができた。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	令和6年度北中城村青年エイサーまつりについては、目標達成の要因として、シャトルバス増便により来場の利便性が上がったことによるものと考えられる。第39回北中城まつりは前年度に比べて来場者数が減少している。	北中城まつりにおいて、伝統芸能をメインにプログラムを構成しているため、若年層の来場者が少ない傾向にある。若年層に向けた周知方法やプログラムを追加することを検討する。
今後の取り組み方針		
若年層向けにWebやSNSを活用した周知方法や集客力のあるアーティストの出演等を検討して来場者の増加を図る。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>20,395</td><td>20,395</td><td>16,316</td><td>4,079</td><td>0</td></tr> </table> 北中城村 20,395千円 報酬 2,297千円 職員手当等 880千円 旅費 36千円 補助金 17,182千円 会計年度任用職員報酬 1名 2,297千円 会計年度任用職員期末勤勉手当 880千円 通勤手当 36千円 北中城村まつり活性化委員会 17,182千円 会計年度任用職員通勤手当 北中城村青年エイサーまつり、北中城まつりの開催					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	20,395	20,395	16,316	4,079	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
20,395	20,395	16,316	4,079	0										
資金の 使途の 流れ、 費目・ 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○補助先のまつり活性化委員会は、村内各種団体で構成され、まつりを主催することから、妥当であったと判断する。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は、事前に見積り等を踏まえ積算しており、妥当であったと判断する。											
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○総事業費10%以上を同委員会で負担しており、補助要綱に則り妥当であったと判断する。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途については、精算時に検査を実施しており、目的に即し、必要であったと判断する。											

市町村名	北中城村						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-②	観光誘客プロモーション事業		新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-3-(2)-ウ		
担当部課名	企画振興課	事業実施 (予定)年度	平成26～令和13年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	多彩かつ質の高い観光の推進		
事業内容	村内観光情報や特産品の紹介ができるよう、ウェブやSNS等のICTを活用したプロモーションのDXの推進を図る。村内訪問者へアンケートを実施し、観光誘客のためのデータの分析を行う。また、国外からの誘致も見据えて、観光案内や観光イベントでのプロモーションを実施するとともに、訪れる観光客の滞在型観光促進ため体験型観光商品の紹介をおこなう。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	43,440	45,649	53,300	52,905	53,907
		(b) 予算現額	43,368	45,649	49,907	50,796	33,483
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 72	0	▲ 3,393	▲ 2,109	▲ 20,424
		(d) 繰越額	0	0	0	0	0
		A. 計 (b+d)	43,368	45,649	49,907	50,796	33,483
	B. 執行済額		41,156	43,334	49,664	48,778	31,942
	うち交付金充当額		32,924	34,667	39,731	39,022	25,553
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		94.9%	94.9%	99.5%	96.0%	95.4%
	予算の状況の説明		当初は県外イベントでのPRを実施する予定だったが、村のPR活動はSNSやイベント会場などで実施していきたいとの考えから事業内容の見直しを行い第2回で変更をおこなった。不用額については委託業務の精算によるものである。				
活動目標 (指標) 及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況				
				R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
	観光イベントでのプロモーション	目 標	(国内:1回)	(国内:1回)	(国内:2回)	(国内4回以上)	
		実 績	国内:1回	国内:1回	国内:2回	国内:8回	
	インターネット上での観光案内の強化	目 標	(実施)	(実施)	(実施)	(実施)	
		実 績	実施	実施	実施	実施	
	Googleを活用したデジタルマーケティング支援	目 標	()	(実施)	(実施)	(実施)	
		実 績		実施	実施	実施	
	テレビ取材、映画撮影等ロケーション受入れ体制強化	目 標	()	()	()	(実施)	
		実 績				実施	
達成状況説明	・(観光イベントでのプロモーション)北中城村の地域ブランディングを図る「きたコス」イベントの実施した。また、観光誘客が行えるイベントを選定しそこでもPRブースを設け観光情報発信を行った。 ・(インターネット上での観光案内の強化)SNSでの観光情報の発信やホームページの情報を充実させた。 ・(Googleを活用したデジタルマーケティング支援)村内30事業所に対してGoogleアカウントの操作方法や情報を充実させるための支援を実施した。 ・(テレビ取材、映画撮影等ロケーション受入れ)撮影場所の提案や日程調整、イベントでの撮影受入れ等を実施した。						

成果目標 (指標) 及び進捗状況		R6成果目標(指標)		基準値 (年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値 (年度)
		PRブース来場者数	目 標	()	(1,700人)	(2,803人)	(4,447人)	()
			実 績		2,236人	4,042人	5,470人	
		観光案内ページの閲覧数	目 標	()	(14,000人)	(17,056回/月)	(17,876回/月)	()
			実 績		159,361人	22,371回/月	47,813回/月	
		Googleを活用したデジタルマーケティング支援: Googleマップ経路検索数増加率(前年度比)	目 標	()	(20%)	(20%)	(20%)	()
			実 績		61%	46%	12%	
		Googleを活用したデジタルマーケティング支援: 25事業所以上	目 標	()	(16)	(24)	(25)	()
			実 績		16	25	30	
		テレビ取材、映画撮影等ロケーション受入れ件数	目 標	()	()	()	(1件)	()
実 績					4件			
進捗状況説明		・(PRブース来場者数) 村内文化財を2拠点を結ぶ若年層向けの地域ブランディングイベント「きたコス」のイベント、他イベントにて本村のPRブースを設けプロモーションを実施し目標数値以上の結果となった。 ・(観光案内ページの閲覧数) ポータルサイトの他にSNS(Instagram、Youtube等)の情報発信の強化を図り、情報発信を行いたい目標数値を上回る結果となった。 ・(Googleを活用したデジタルマーケティング支援) 目標数を上回る村内30事業所のGoogle情報の充実を図る支援をおこなった。経路検索数増加率については成果目標を下回る結果となったが12%の増加となった。 ・(ロケーション受入れ) テレビ、YouTube撮影等受入れをおこない、成果目標を上回る結果となった。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	(PRブース来場者数) 観光冊子の配布、観光PR動画の放映、観光ノベルティグッズの活用を行うことで来場者に本村の観光コンテンツが紹介できるツールを多数準備できたことが目標達成の要因と考えられる。 (観光案内ページの閲覧数) 村内情報発信の強化を実施したが、情報が多く飛び交う情勢の中でニーズが求める配信にができたことが目標数値を上回った要因と考えられる。 (Googleを活用したデジタルマーケティング支援) 経路検索数増加率について、支援期間中に休業となった事業所が数力所あったことが影響し目標数値を下回ったと考えられる。 (ロケーション受入れ) コスプレイベント撮影の依頼が多数あり、目標数値を上回る要因となった。	(PRブース来場者数) 本村の認知度向上の目的のPRから村内滞在観光を促進するPRへ。 (観光案内ページの閲覧数) Web情報の閲覧から実際に足を運んでもらうよう、村内周遊に活用できるコンテンツを構築を検討する。 (Googleを活用したデジタルマーケティング支援) 支援した各事業所のGoogleの情報を観光客に向けて情報発信し観光誘客を図る。 (ロケーション受入れ) 本村の文化財等のロケーション撮影場所やイベント情報を周知して、受入れを促進する。
今後の取り組み方針		
(PRブース来場者数) 観光ニーズのあるイベントであるかを選定しながら、観光ガイドやWebマップ等来村につなげる事ができるツールを紹介し、観光客誘致の促進を図る。 (観光案内ページの閲覧数) (Googleを活用したデジタルマーケティング支援) 村内の観光情報を盛り込んだWeb上のマップをポータルサイトに公開し、旅マエ・旅ナカの情報の充実を図る。Webマップ支援事業所も含めて本村の観光情報、観光施設、事業所を掲載することで、観光客の村内周遊を促す。 (ロケーション受入れ) 観光ポータルサイト等でロケーション受入れ情報ページの掲載をおこないロケーション誘致を図る。		

資金の流れ						
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)						
		総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
		31,942	31,942	25,553	6,389	0
北中城村 31,942千円	報酬 2,071千円	会計年度任用職員 2,071千円	〔 会計年度任用職員報酬 〕			
	職員手当等 794千円	会計年度任用職員 794千円	〔 会計年度任用職員期末勤勉手当 〕			
	需用費 82千円	JAおきなわSS 39千円	〔 車両燃料費 〕			
		株式会社 ネットプロテクションズ	〔 印刷製本費 〕			
	委託料 28,620千円	(一社)北中城村観光協会 27,859千円	〔 観光誘客プロモーション業務 〕			
		株式会社 日本広告 238千円	〔 コスプレイベント会場設営業務 〕			
		(一社)北中城村観光協会	〔 コスプレイベント運営補助業務 〕			
		北中城村シルバー人材センター 38千円	〔 コスプレイベントシャトルバス運営業務 〕			
		株式会社 日本広告 272千円	〔 コスプレイベント申込兼受付管理業務 〕			
	使用料及び賃借料 375千円	大城・荻道公民館 22千円	〔 施設使用料 〕			
トヨタレンタリース 353千円		〔 車両リース 〕				

資金の 使途の 流れ、 費目、 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○契約先は地方自治法施行令第167条の2第1項2号に基づき随意契約を行っており妥当であったと判断する。 ○不用額が事業費の4.6%であることから、適正な規模であったと考える。 ○費目・使途については、精算時に検査を実施しており、目的に即し、必要であったと判断する。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	北中城村						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-③	コミュニティバス実証事業			新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-1-(1)-ウ	
担当部課名	企画振興課	事業実施 (予定)年度	平成30～令和7年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	人と環境に優しいまちづくりの 推進	
事業内容	村内への観光誘客を図り、観光客をはじめとする交通弱者の利便性向上を図るため、コミュニティバスによる実証実験を行う。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	25,589	23,844	39,281	40,601	40,569
		(b) 予算現額	29,537	23,844	31,525	38,601	36,761
		(c) 増減額 (b-a)	3,948	0	▲7,756	▲2,000	▲3,808
		(d) 繰越額	0	0	0	0	0
		A. 計 (b+d)	29,537	23,844	31,525	38,601	36,761
	B. 執行済額		29,112	24,964	30,147	36,270	35,237
	うち交付金充当額		23,289	19,971	24,118	29,016	28,189
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		98.6%	104.7%	95.6%	94.0%	95.9%
予算の状況の説明		・コミュニティバス実証実験業務において、当初、公共交通会議の開催を2回予定していたが1回の開催となったこと、また、入札執行残により委託料を減額補正した。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	運行日数	目 標	(350日以上)	(350日以上)	(350日以上)	(350日以上)	
		実 績	365日	365日	363日以上	365日	
	運行ルート	目 標	(1回)	(2ルート)	(2ルート)	(2ルート)	
		実 績	3回	2ルート	2ルート	2ルート	
達成 状 況 説 明	・計画通り運行日数を達成することができた。 ・令和6年3月25日より「喜舎場廻り・島袋廻り」から「東ルート・西ルート」へ運行ルートを変更し、公共交通空白地域(島袋小学区付近)及び石平地区、瑞慶覧地区へルートを拡充した実証運行を実施した。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値 (年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値 (年度)
	年間利用者数	目 標	()	(5,500人)	(11,700人)	(14,600人)	()
		実 績		11,845人	18,841人	20,718人	
	【参考指標】	目 標	()	()	()	()	()
		実 績					
	進 捗 状 況 説 明	・過年度までの「喜舎場廻り・島袋廻り」から「東ルート・西ルート」へ運行ルートを村全域に拡大した実証運行に取り組んだ。村内イベントや広報誌等での周知に努めることで認知度が徐々に高まっており、年間利用者数は増加傾向あり目標を達成することができた。					

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化） ・運行ルートを拡大したことにより、公共交通不便地域の村内土地利用地域のカバー率が63.7%（コミュニティバス運行前：39.7%）に増加したが、増設したバス停や一部のバス停においては、利用者数が少ない箇所がある。 ・地域住民を対象に実施したアンケート調査において、運行ルートの更なる拡大、増便、バス停設置場所の改善（バス停の位置が遠いなど）や自宅から目的地まで直接移動できる手段に関する要望が挙がっている。 ・村広報誌やHPでの継続した周知に加え、北中城まつりでコミュニティバスの周知を図るなど、地域住民に対し当バスの認知度向上を図ることで利用者は増加傾向にあるものの、運行経費の高騰など、収支の改善が求められる。	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点） ・土地利用カバー率が拡大しているものの、更なるカバー率の向上を図るためには、バス停の増設設置が必要になり、運行ルートの複雑化、運行距離及び時間が増加し利便性が低下するため、これまで実施してきた定時定路線での運行では対応に限界があることから、より効率的な公共交通体系の検討が必要である。 ・本村の起伏が激しい地形や駐留軍用地の存在により遠回りする必要がある地域に居住する交通弱者に対し、当バスの更なる利便性向上を図るためには、アンケート調査結果で得られた課題への対応が必要である。 ・域内交通の利用者ニーズに対応しつつ、持続的な公共交通サービスの提供に向けた検討が必要である。
	今後の取り組み方針 ・これまでの実証運行の結果や浮き彫りになった課題を踏まえた新たな公共交通の可能性について検討を行う。 ・村広報誌やHP、SNS等を活用し、地域住民に対しコミュニティバスの情報発信に努めるとともに、関係機関及び企業等と連携したコミュニティバスの運行情報の発信に努めることで地域住民及び観光客等、利用者への利用促進を図る。	

今後の取り組み方針

- ・これまでの実証運行の結果や浮き彫りになった課題を踏まえた新たな公共交通の可能性について検討を行う。
- ・村広報誌やHP、SNS等を活用し、地域住民に対しコミュニティバスの情報発信に努めるとともに、関係機関及び企業等と連携したコミュニティバスの運行情報の発信に努めることで地域住民及び観光客等、利用者への利用促進を図る。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
37,829	35,237	28,189	7,048	2,592

```

        graph LR
            A[北中城村  
35,237千円] --> B[報償費  
40千円]
            A --> C[旅費  
10千円]
            A --> D[委託料  
32,420千円]
            A --> E[使用料及び賃借料  
2,767千円]
            B --> B1[委員報酬(10人)  
40千円]
            B1 --- B1_note[地域公共交通会議]
            C --> C1[費用弁償(10人)  
10千円]
            C1 --- C1_note[地域公共交通会議]
            D --> D1["(株)琉球バス交通  
26,275千円"]
            D1 --- D1_note["コミュニティバス実証実験運行業務  
(ほか、村負担分(対象外経費):2,592千円)"]
            D --> D2["(株)中央建設コンサルタント  
5,799千円"]
            D2 --- D2_note[コミュニティバス実証実験業務]
            D --> D3["アーティサン(株)  
214千円"]
            D3 --- D3_note[バス予報保守等業務]
            D --> D4["アーティサン(株)  
132千円"]
            D4 --- D4_note[カンタンGTFS保守等業務]
            E --> E1["日本カーソリューションズ(株)  
1,051千円"]
            E1 --- E1_note["バスリース業務①(有償運行)"]
            E --> E2["日本カーソリューションズ(株)  
1,716千円"]
            E2 --- E2_note["バスリース業務②(有償運行)"]
    
```

評価	点 検 項 目	評価に関する説明
○	支出先の選定方法は妥当か。	○実証事業に係る委託業者は、指名競争入札の手続きを経て選定しており、妥当であったと考える。
○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○不用額は、事業費の5%以内であり、適正な規模であったと考える。
○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○バス運賃について、民間バス会社のバス運賃と同水準(一般:200円)の運賃設定としており、受益者であるバス利用者の負担についても適正であると考え。
○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目及び使途については、事業完了時に検査を実施しており、目的に即し必要なものであったと判断した。

資金の流れ、費目・使途の点検評価

市町村名	北中城村						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-④	ウェルネスツーリズム推進事業			新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-3-(2)-(ウ)	
担当部署名	企画振興課	事業実施 (予定)年度	令和4～令和13年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	多彩かつ質の高い観光の推進	
事業内容	本村の女性平均寿命3期連続日本一という健康長寿ブランドを活かしたウェルネスプログラムの開発、ウェルネスツーリズムを推進することで、村のPRとともに観光誘客を図る。 また、村民についても、今後も健康長寿ブランドを維持することを目的に定期的なウェルネスワークショップを開催し、健康づくりの啓発を図りながら、健康長寿村の一員としての誇りを醸成する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	予算 の 状 況	(a)当初予算額			8,225	7,446	14,556
		(b)予算現額			5,864	7,446	13,714
		(c)増減額(b-a)			▲ 2,361	0	▲ 842
		(d)繰越額			0	0	0
		A. 計(b+d)			5,864	7,446	13,714
	B. 執行済額			5,794	7,294	13,714	
	うち交付金充当額			4,634	5,835	10,970	
	次年度繰越額			0	0	0	
	執行率(%) (B/A)			98.8%	98.0%	100.0%	
予算の状況の説明		計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	R5活動目標(指標)		達成状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	ウェルネスイベントの開催	目 標		(2回)	(2回)	2回	
		実 績		2回	2回	2回	
	ウェルネスワークショップの開催	目 標		(5回)	(5回)	5回	
		実 績		5回	5回	5回	
	国際ウェルネスツーリズムEXPOへの出展	目 標		()	(出展)	出展	
		実 績			出展	出展	
	達成 状況 説明	・ウェルネスイベントについては今年度は2回の屋外イベントを開催。当初のスケジュール通り2回実施が完了した。 ・ワークショップはウェルネスツアープログラムを当初予定通り5回実施した。 ・国際ウェルネスツーリズムEXPOで北中城村ブースを出展し、ツアープログラムの周知を実施した。					
	成果目標 (指標) 及び進捗状況	R5成果目標(指標)		基準値 (年度)	R4年度	R5年度	R6年度
ウェルネスイベント総参加者数		目 標	()	(300人)	(200人)	200人	()
		実 績		176人	226人	91人	
ウェルネスワークショップ参加者数		目 標	()	(75人)	(100人)	100人	()
		実 績		75人	129人	130人	
国際ウェルネスツーリズムEXPOでの商談実績		目 標	()	(30人)	(5件)	5件	()
		実 績		24人	11件	10件	
進 捗 状 況 説 明		・ウェルネスイベントについては屋外イベント開催日が天候不良で2回とも延期開催となり、目標を下回る91人の参加となった。 ・ウェルネスワークショップは農業体験のニーズが高く、合計目標者数を上回る130人の参加となった。 ・昨今の旅行トレンドが体験商品となっていることで農業体験をウリにする本村のブースに訪れる事業者が増えた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	(ウェルネスイベント総参加者数) ・2回のイベントを屋外で開催したことで、2回とも悪天候と重なり延期での開催となった。屋外イベントは集客は見込めるが天候に左右されるため開催月を検討する必要がある。	(ウェルネスイベント総参加者数) ・屋外での開催では集客は見込めるが延期での開催となってしまった場合、参加者数が減少してしまう。そのため延期開催ではなく雨天時の場合の開催場所を予め確保しておくなどの対策も検討していく必要がある。
	(ウェルネスワークショップ) ・国際ウェルネスツーリズムEXPOでの商談でニーズの高かった農業体験をプログラムとして構成。目標を上回る130人の参加があった。普段土に触れることの少ない方々のニーズの高さが伺えた。同様にインバウンドにも高い需要があることがわかり、多言語での対応が今後必要となってくる。	(ウェルネスワークショップ) ・イベント周知は主にSNSを活用しているが、日本語のみであったことから今後のインバウンド需要の取り込みを想定し、多言語での周知も実施する必要がある。同時に体験受入れ事業所ともインバウンド客対応策を練っていく必要がある。
	(国際ウェルネスツーリズムEXPO) ・旅行関係事業者の体験商品への関心が高く10事業者との商談を得た。今後も旅行関係事業者のニーズを把握し、ニーズに即したプログラムの磨き上げを図っていく。	(国際ウェルネスツーリズムEXPO) ・多言語化された体験プログラムの販促物やWEB掲載用素材等を制作し、インバウンドへの周知を強化する必要がある。
今後の取り組み方針		
令和7年度は大阪・関西万博に出店を計画しており、万博需要を取込むべく、ウェルネス観光を北中城村周遊ツアーの一環として北中城村内観光滞在時間及び観光消費額を高めていく		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)																
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">総事業費</th><th rowspan="2">交付対象事業費</th><th colspan="2">交付金充当額</th><th rowspan="2">交付対象外経費</th></tr> <tr> <th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th></tr> <tr> <td>13,714</td><td>13,714</td><td>10,970</td><td>2,744</td><td>0</td></tr> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費	交付金充当額	市町村負担金	13,714	13,714	10,970	2,744	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費												
		交付金充当額	市町村負担金													
13,714	13,714	10,970	2,744	0												
北中城村 13,714円 報酬 2,106千円 職員手当等 807千円 旅費 139千円 委託料 10,662千円 会計年度任用職員報酬(1名) 2,106千円 会計年度任用職員期末手当(1名) 807千円 会計年度任用職員通勤手当(1名) 139千円 北中城村観光協会 10,662千円 会計年度任用職員報酬 会計年度任用期末手当 会計年度任用職員通勤手当 ウェルネスツーリズム推進事業委託業務																
資金の流 れ、点検 ・評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明													
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業務については村契約規則に則り契約を行っており妥当であるとする。 ○予算規模は、事前に見積り等を踏まえ積算しており、妥当であったと判断する。 ○費目や使途については、完了時に検査を実施しており、目的に即し必要であったと判断する。													
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。														
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。														
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。														

市町村名	北中城村							
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	2-①	キャンプ瑞慶覧特定駐留軍用地推進基金事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(13)-イ			
担当部課名	企画振興課	事業実施(予定)年度	平成25～令和6年度	沖縄振興基本方針該当箇所	駐留軍用地跡地利用の早期着手に向けた取組の推進			
					Ⅲ-8			
事業内容	キャンプ瑞慶覧ロウワープラザ地区の跡地利用を推進するため、基金を活用し公有地の先行取得を行う。							
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)							
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度		
	予算の状況	(a)当初予算額	1,683	2,732	2,375	2,340	2,299	
		(b)予算現額	1,442	2,732	1,421	649	1,577	
		(c)増減額(b-a)	▲241	0	▲954	▲1,691	▲722	
		(d)繰越額	0	0	0	0	0	
		A.計(b+d)	1,442	2,732	1,421	649	1,577	
	B.執行済額		1,441	1,547	1,421	648	1,576	
	うち交付金充当額		1,153	1,237	1,136	518	1,260	
	次年度繰越額		0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)		99.9%	56.6%	100.0%	99.8%	99.9%	
予算の状況の説明		当初予算から減額補正を行った主な要因は、先行取得業務の入札残等を-722千円減額した。						
活動目標(指標)及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況					
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度		
	公共用地の取得		目 標	(1,636㎡)	(425㎡)	(203㎡)	(203㎡)	
			実 績	1,211㎡	222㎡	0㎡	203㎡	
達成状況説明	買取申出期間を6～7月末まで2か月設け申出者を募った結果、1件の申出があり、買取協議により、用地取得ができた。							
成果目標(指標)及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)	
			目 標	()	(100%)	(100%)	(100%)	()
	全体用地取得率:100%		実 績	98.2%	98.2%	100%		
	【参考指標】		目 標	()	()	()	()	
			実 績					
	進捗状況説明	土地取得の進捗状況は、申出1件に対して203㎡の買取により、10,797㎡(98.2%)から面積11,000㎡となり目標面積に達した。						

市町村名	北中城村						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-②	キャンプ瑞慶覧返還地区等跡地利用推進事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(13)-イ		
担当部課名	企画振興課	事業実施(予定)年度	令和3～令和9年度	沖縄振興基本方針該当箇所	駐留軍用地跡地利用の早期着手に向けた取組の推進		
事業内容	キャンプ瑞慶覧ロウワー・プラザ住宅地区等の跡地利用を推進するため、本地区の課題及び対応方針を踏まえた沖縄市・北中城村キャンプ瑞慶覧返還地区等跡地利用整備計画(案)の作成を行う。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
	予算の状況	(a) 当初予算額		2,706	3,846	12,700	8,800
		(b) 予算現額		2,706	3,846	10,313	8,525
		(c) 増減額 (b-a)		0	0	▲ 2387	▲ 275
		(d) 繰越額		0	0	0	0
		A. 計 (b+d)		2,706	3,846	10,313	8,525
	B. 執行済額			2,706	3,180	10,313	8,525
	うち交付金充当額			2,164	2,544	8,250	6,820
	次年度繰越額			0	0		0
	執行率(%) (B/A)			100.0%	82.7%	100.0%	100.0%
予算の状況の説明		計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。					
活動目標(指標)及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況				
				R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
	跡地利用整備計画(案)の検討	目 標	()	()	(実施)	(実施)	
		実 績			実施	実施	
	関係課協議の実施	目 標	()	()	()	(実施)	
		実 績				実施	
達成状況説明	・跡地利用整備計画(案)のブラッシュアップのため、本地区の計画に関する条件整理等について関係機関と意見交換を実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)
	跡地利用整備計画(案)の見直し及び必要に応じ修正	目 標	()	()	()	(実施)	()
		実 績				実施	
	【R6年度以降成果目標】本地区における跡地利用の検討に対する地権者や村民等の「肯定的な意見」80%以上	目 標	()	()	()	(80%)	()
		実 績				52.5%	
	進捗状況説明	・本地区の計画に関する条件整理等について関係機関と意見交換を実施し、跡地利用整備計画(案)を修正した。 ・跡地利用の検討に対する地権者の評価は、肯定的な意見は52.5%、否定的な意見は4.3%、わからないとした意見は、36.2%、その他等6.9%であった。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	(跡地利用整備計画(案)の修正) ・過年度作成した跡地利用整備計画案を基に、本地区の課題である河川や調整地、道路、公園等について市村の関係課へヒアリングを実施し修正案をまとめた。 (本地区における跡地利用の検討に対する地権者の肯定的な意見) ・肯定的な意見が目標に届かなかった要因として、返還時期が明確に定まっていなかったことや、返還前に検討できることが限られているため詳細な計画を示すことが困難なこと等、様々な要因が複合的に影響しているためと考える。	・地権者組織や沖縄防衛局等と必要なタイミングで情報共有を図り、返還までにより良い計画となるように努める。
今後の取り組み方針		
・跡地利用整備計画(案)を基に、庁内の関係課と意見交換を行い、跡地利用整備計画(案)をブラッシュアップする。 ・引き続き、関係機関(沖縄防衛局、沖縄県、沖縄県警察署)との意見交換を行い、円滑な跡地利用の実施に向けて取り組む。		

資金の流れ														
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>17,050</td><td>8,525</td><td>6,820</td><td>1,705</td><td>8,525</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	17,050	8,525	6,820	1,705	8,525
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
17,050	8,525	6,820	1,705	8,525										
北中城村 17,050千円 委託料 17,050千円 昭和株式会社沖縄支社 17,050千円 キャンプ瑞慶覧返還地区等跡地利用整備計画推進支援業務委託 ほか、沖縄市負担分(交付対象外経費):8,525千円														
資金の流し、評価	評価	点検項目	評価に関する説明											
資金の流し、評価	○	支出先の選定方法は妥当か。	○本業務は、公募型プロポーザル方式により事業者を選定しており妥当である。 ○不用額は事業費の5%以内であり適正であると判断する。 ○費目・使途については、精算段階で検査を実施しており、目的に即し必要であると判断する。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	北中城村						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-③	喜舎場住宅地区跡地利用推進事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(13)-イ		
担当部課名	企画振興課	事業実施(予定)年度	平成25～令和6年度	沖縄振興基本方針該当箇所	駐留軍用地跡地利用の早期着手に向けた取組の推進		
事業内容	キャンプ瑞慶覧喜舎場住宅地区の一部返還後の跡地利用に向けて、フルインター化計画を推進しながら、返還予定区域の見直しが認められなかった場合に備えた計画案の作成をする。						
効果発現年度	■当年度 ■後年度(令和7年度)						
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
	予算の状況	(a)当初予算額		6,923	6,490	6,820	8,118
		(b)予算現額		3,696	6,490	6,435	7,589
		(c)増減額(b-a)		▲3,227	0	▲385	▲529
		(d)繰越額		0	0	0	0
		A.計(b+d)		3,696	6,490	6,435	7,589
	B.執行済額			3,673	5,843	6,196	7,589
	うち交付金充当額			3,673	4,674	4,956	6,071
	次年度繰越額			0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)			99.4%	90.0%	96.3%	100.0%
予算の状況の説明		計画的な予算執行に努め業務を遂行した。					
活動目標(指標)及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況				
				R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
	報告書の作成		目標	()	()	()	(実施)
		実績				実施	
達成状況説明	・過年度作成した平面図案を基に関係機関協議を踏まえ平面図案の更新を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(7年度)
	・本地区における跡地利用の検討に対する地権者や村民等の「肯定的な評価」80%以上	目標	()	()	()	(80%)	()
		実績				未実施	
	【R7成果目標(後年度)】本地区における跡地利用の検討に対する地権者や村民等のアンケート調査の実施「肯定的な評価」80%以上	目標	()	()	()	()	(80%)
		実績					
進捗状況説明	・過年度平面図案を基にアンケートを実施する予定だったが、平面図案を更新することとなったため、実施を見送った。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	(本地区における跡地利用の検討に対する地権者や村民等) ・過年度に作成した(仮称)喜舎場スマートIC平面図案を更新し、新たな課題等を抽出した。課題等の整理に時間を要するため、地権者説明会やアンケートの実施を見送った。	(本地区における跡地利用の検討に対する地権者や村民等) ・更新した平面図案を基に、沖縄防衛局等の関係機関協議を実施し、本村の魅力を活かす効果的案跡地利用の検討に努める。
今後の取り組み方針		
・返還予定区域のうち、(仮称)喜舎場スマートIC計画区域外の活用を検討を行う。		

資金の流れ

(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
7,589	7,589	6,071	1,518	0

北中城村
7,589千円

委託料
7,589千円

日本工営都市空間株式会社沖縄支店
7,589千円

跡地利用検討業務

資金の 使途の 流れ、 点検 評価・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○本業務は、指名競争入札により事業者を選定しており、妥当である。 ○不用額は事業費の5%以内であり適正であると判断する。 ○費目・使途については、精算段階で検査を実施しており、目的に即し必要であると判断する。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	北中城村						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-①	雇用サポートセンター事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(11)-ア	
担当部課名	企画振興課	事業実施(予定)年度	平成24～令和13年度		沖縄振興基本方針該当箇所	雇用機会の確保と多様な人材の活躍促進	
事業内容	雇用機会の創出を図るため、地域に密着した就業支援による雇用サポートセンターを設置する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
		(a)当初予算額	2,918	3,083	3,083	2,844	3,298
		(b)予算現額	2,888	3,083	3,083	2,844	3,416
		(c)増減額(b-a)	▲ 30	0	0	0	118
		(d)繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計(b+d)	2,888	3,083	3,083	2,844	3,416	
		B. 執行済額	2,859	3,038	3,008	2,846	3,416
	うち交付金充当額	2,286	2,430	2,406	2,277	2,733	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	99.0%	98.5%	97.6%	100.1%	100.0%	
予算の状況の説明	計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。						
活動目標(指標)及び達成状況	R5活動目標(指標)		達成状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	登録企業の開拓	目 標	(50件)	(30件)	(20件)	(20件)	
		実 績	17件	16件	12件	16件	
	求職者の個別支援	目 標	(40件)	(40件)	(30件)	(30件)	
		実 績	10件	26件	4件	7件	
達成状況説明	・登録企業の開拓については、16件で目標値を下回った。 ・求職者の個別支援として、電話や窓口での相談件数は153件あったが、履歴書・職務経歴書の記入指導、面接対策等については、7件にとどまった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R5成果目標(指標)		基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)
	就業者数	目 標	()	()	(3人)	(3人)	()
		実 績			3人	3人	
	職業訓練校マッチング人数	目 標	()	()	(3人)	(3人)	()
		実 績			0人	0	
	相談件数	目 標	()	()	(130件)	(130件)	()
実 績				140件	153件		
進捗状況説明	・求職者からの相談件数は153件、最終的なマッチングは3人中3人の就職内定となり、就業者数と相談件数の目標は達成した。 ・職業訓練校マッチング人数については、相談は22件あったものの、実際に受講につながったものはおらず、目標は達成できなかった。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・広報紙へ求人情報を定期的に掲載を行ったが、紙面の都合で村内事業者や村内に事業所があり、勤務先が村外といった事業所しか掲載することができなかったため、掲載内容の調整が必要である。 ・求職者は、ハローワークの登録のみ行うケースが多いため、当該雇用サポートセンターの事業内容について、引き続き周知広報の強化やハローワークとの情報共有等の連携が必要である。 ・職業訓練校については、本人や家族の状況により給付金を受けながら受講できないケースなどがあったため、成果目標を達成することができなかった。 ・引き続き、求職者が希望に近い求人を選択できるよう登録企業の開拓を進める必要がある。	・引き続き、企業等に対し、行政側(北中城村・ハローワーク)の雇用者支援策等の周知を強化し、雇用促進に取り組む必要がある。 ・引き続き、マッチング率向上のため幅広く企業開拓を推進し、村広報紙へも求人情報を掲載し、求職者への周知を強化する。 ・事業所の所在地が村内外に関わらず、広報紙へ掲載できるように広報誌担当と調整を行う。 ・職業訓練校の受講につなげるため、個々の状況に対応した情報提供・サポートを行う必要がある。
今後の取り組み方針		
・求職者の採用内定のみならず、必要に応じて職業訓練校への紹介等により求職者のスキルアップを図ることで幅広い支援につなげる。 ・引き続き、ハローワーク等との情報共有や企業訪問等により、幅広く企業開拓に取り組む。 ・企業に対して行政の雇用支援策等の周知に努め、求職者の雇用促進を図り、村内求人情報を広報紙などで周知することで、マッチング率向上に努める。 ・窓口にご家族が来た際、本人が直接窓口に来るように促しているが、どうしても本人が来れない場合など、状況に応じて、こちらから訪問することも検討していく。 ・令和7年度からは、グジョブ連携推進事業と合同で事業を行い、事業所とのやりとりや、求職者への情報提供を円滑に進められるように努める。		

資金の流れ				
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
北中城村 3,416千円 報酬 2,347千円 職員手当等 900千円 旅費 27千円 需要費 使用料及び賃借料 136千円 会計年度任用職員報酬(1名) 2,347千円 会計年度任用職員期末勤勉 手当(1名) 900千円 会計年度任用職員通勤手当(1 名) 27千円 消耗品費 6千円 (株)プロスタッフ 136千円 雇用支援員 雇用支援員 雇用支援員 雇用支援員 パソコン賃借料				
		総事業費	交付対象事業費	交付対象外経費
		3,416	3,416	0
			交付金充当額	市町村負担金
			2,733	683
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点検項目	評価に関する説明	
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定は、関係規則等に基づき行っており、妥当であると考える。	
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○不用額は事業費の5%以内であり適正であると判断する。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目、使途については、雇用サポート業務に精通した人員を配置しており、目的に即し必要だと判断する。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名	北中城村							
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	3-②	グッジョブ連携推進事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(11)-ウ		
担当部課名	企画振興課	事業実施(予定)年度	平成27～令和13年度		沖縄振興基本方針該当箇所	若者の活躍促進		
事業内容	児童生徒の勤労観や職業観の育成を図るため、ジョブシャドウイングや職場体験、出前フォーラム等を実施する。							
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)							
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()							
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	21,636	22,482	22,482	22,482	23,300	
		(b)予算現額	21,636	22,482	22,482	23,329	23,300	
		(c)増減額(b-a)	0	0	0	847	0	
		(d)繰越額	0	0	0	0	0	
		A. 計(b+d)	21,636	22,482	22,482	23,329	23,300	
	B. 執行済額		21,636	22,482	22,482	23,329	23,281	
	うち交付金充当額		17,308	17,985	17,985	18,663	18,624	
	次年度繰越額		0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	99.9%	
予算の状況の説明		・計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。						
活動目標(指標)及び達成状況	R5活動目標(指標)		達成状況					
				R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	ジョブシャドウイングの実施(小学校2校)	目 標	(2校)	(2校)	(2校)	(2校)		
		実 績	1校	2校	2校	2校		
	職場体験の実施(中学校1校)	目 標	(1校)	(1校)	(1校)	(1校)		
		実 績	0校	1校	1校	1校		
	キッズJOBクラブの実施	目 標	(実施)	(実施)	(実施)	(実施)		
		実 績	実施	実施	実施	実施		
	職業人講話及びフィールドワークの実施(高校1校)	目 標	()	()	(1校)	(1校)		
		実 績			1校	1校		
キャリア教育講演会の実施	目 標	(実施)	(実施)	(実施)	(実施)			
	実 績	実施	実施	実施	実施			
達成状況説明	・ジョブシャドウイングについて、村内の小学校2校を対象に実施した。 ・職場体験について、村内の中学校1校を対象に実施した。 ・キッズJOBクラブについて、村内在住または村内小学校に在籍する小学4～6年生を対象に実施した。 ・職業人講話及びフィールドワークについて、村内の県立高校を対象に実施した。 ・キャリア教育講演会について、保護者、PTA、教員等を対象実施した。							
成果目標(指標)及び進捗状況	R5成果目標(指標)			基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)
	就業に対する意識が向上したか(80%以上)を含め、アンケート調査により本事業のあり方を検証を行う。		目 標	()	(80%以上)	(80%以上)	(80%以上)	()
	進捗状況説明		実 績		77%	74%	73%	
		北中城小学校では事業前が66%だったのに対し、事業後は73%、島袋小学校では、事業前が72%だったのに対し、事業後は73%、北中城中学校では事業前が72%だったのに対し、事業後は73%となった。北中城小学校では就業に対する意識が上昇したが、北中城小学校と北中城中学校では、事業前後の割合はほとんど変わらなかったが、結果として73%となった。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・ジョブシャドウイングや職場体験で希望職種の見学や体験ができなかったことや、実際に見学・体験したことで、働くことに対するイメージとのギャップが生じたと考えられる。 ・新型コロナウイルス感染症の影響で働き方が変わった業種もあり、リモートワークやGIGAスクール構想など社会状況も大きく変化がみられるので、児童生徒のキャリア形成のため、プログラム内容や更なる質の向上を図る必要がある。 ・小学校のジョブシャドウイング実施にあたり、受入事業所までの送迎にかかる費用が多くなっているため、児童を安全に送迎するための送迎方法について検討する必要がある。	・受入企業の開拓をすすめ、希望職種とマッチングできるように努める。 ・現場で直接関わる担当教員を加えたワーキンググループ会議を発足し、プログラム見直しや効果的な手法の検討を行う。 ・保護者に送迎を依頼するなど、送迎方法については学校と協議しながら検討をすすめる。送迎が難しくなった場合、ジョブシャドウイングに変わる事業についても検討を行う。
今後の取り組み方針		
・引き続き、これまで培ってきた協力体制を維持し、本事業の継続実施に向け取り組む。 ・引き続き、児童生徒の就業意識の向上に努めることで、職業観や勤労観の育成に取り組む。 ・これまでの協議会に加え、現場担当者同士のワーキンググループ会議を定期的に行い、児童生徒・保護者・地域に向けた取り組みの発展に取り組む。 ・令和7年度も、プロポーザル審査を行い、より良い取り組みができるように努める。 ・令和7年度からは、雇用サポートセンター事業と合同で事業を行い、事業所とのやりとりをより円滑に進められるように努める。		

資金の流れ														
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金 充当額</th><th>市町村 負担金</th><th>交付対象 外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>23,281</td><td>23,281</td><td>18,624</td><td>4,657</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費	23,281	23,281	18,624	4,657	0
総事業費	交付対象事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費										
23,281	23,281	18,624	4,657	0										
北中城村 23,281千円 委託料 23,281千円 株式会社ジョイオブクリエーション 23,281千円 北中城村グッジョブ連携推進事業														
事業の 資金の 流れ の 目 録	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	北中城村						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-①	営農支援強化事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(7)-ア	
担当部課名	農林水産課	事業実施(予定)年度	平成24～令和13年度		沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄ブランドの確立と生産供給体制の強化	
事業内容	営農指導員による専門的な助言・指導により農家の生産力向上を図るとともに、安定した農業経営に必要なパイプハウス整備支援を実施する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 □委託 ■補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	5,120	11,988	12,082	18,733	20,147
		(b) 予算現額	10,937	4,895	10,403	13,202	18,533
		(c) 増減額(b-a)	5,817	▲7,093	▲1,679	▲5,531	▲1,614
		(d) 繰越額	0	0	0	0	0
		A. 計(b+d)	10,937	4,895	10,403	13,202	18,533
	B. 執行済額		10471	4894	10052	13371	17908
	うち交付金充当額		8377	3914	8041	10697	14326
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		95.7%	100.0%	96.6%	101.3%	96.6%
予算の状況の説明		・営農指導員を2名採用したが、1名が9月末に退職したため、1,614千円減額した。 ・パイプハウスの設置は、計画どおり2基設置した。					
活動目標(指標)及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	営農指導員の配置	目標	(2名)	(2名)	(2名)	(2名)	
		実績	2名	1.4名	2名	1名	
	パイプハウス施設の整備補助	目標	()	(2基)	(2基)	(2基)	
		実績		2基	2基	2基	
達成状況説明	・営農指導員を2名配置し、専門的な指導・助言を行った。営農指導員1名が9月末に退職した。 ・パイプハウス施設の整備については、計画通り2基の整備を完了した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)
	JA等への出荷数量	目標	()	()	()	(野菜:6.9t 果樹:2.2t)	()
		実績				野菜:12.8t 果樹:1.6t	
	【参考指標】	目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	約80戸の村内農家への巡回指導を行った。猛暑による生育不良などの被害があった。 年間出荷数量が0.1t減の14.3tとなったものの、目標を達成することができた。 給食センターへの村内産野菜の出荷調整にも取り組んだ。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・営農指導員について、台風の影響はなかったが、猛暑のため一部で農産物の生育不良などの被害が生じた。 ・パイプハウス施設整備について、早めの選定を行ったが、資材確保等の影響により完成が工期間際となった。	・農家への自然災害対応の指導が必要である。新たな病害虫も発生しているため防除対策を徹底する。 ・パイプハウス施設整備について、イレギュラーな事態を想定し、事業着手時期などの年間スケジュールの見直しが必要である。
今後の取り組み方針		
・病害虫防除や農業適正指導などについて、生産農家からのニーズが恒常的であることから、営農指導員の適正な配置と巡回指導に努め、生産量拡大を支援する。 ・パイプハウス施設整備については、従来6月頃から行っている整備希望者選定などの取り組みを年度当初から取りかかり、時間的余裕をもって整備事業を進められるよう改善する。		

資金の流れ										
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)										
		総事業費	交付対象事業費	<table><tr><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>17,908</td><td>17,908</td><td>14,326 3,582 0</td></tr></table>	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	17,908	17,908	14,326 3,582 0
交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費								
17,908	17,908	14,326 3,582 0								
北中城村 17,908千円 報酬 4,011千円 職員手当等 1,527千円 旅費 50千円 補助金 12,320千円 会計年度任用職員 1.5名 4,011千円 会計年度任用職員 1.5名 1,527千円 会計年度任用職員 1.5名 50千円 沖縄県農業協同組合 12,320千円 〈 農業経営改善指導業務 〉 〈 農業経営改善指導業務 〉 〈 農業経営改善指導業務 〉 〈 パイプハウス整備事業費補助金 〉										
資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目		評価に関する説明						
	○	支出先の選定方法は妥当か。		○営農指導員は、資格・経験を備えた者を面接により選考・任用しており、妥当であったと考える。 ○パイプハウス整備予算については、複数業者からの見積りによる積算及び入札により実施していることから、妥当であったと考えている。 ○受益者との負担関係については、パイプハウス整備に係る費用の一部を交付要綱に則っており、妥当であるとする。 ○費目・使途については、いずれも農産物の生産量拡大に資するものであり、事業目的に即し、真に必要なものであったと考えている。						
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。								
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。								
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。								

市町村名	北中城村						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-②	農を活かした健康・福祉の里づくり事業に向けた推進事業		新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-3-(7)-キ		
担当部課名	農林水産課	事業実施 (予定)年度	平成30年～令和7年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	魅力と活力ある農山漁村地域の振興と脱炭素社会への貢献		
事業内容	耕作放棄地を利活用するため、民間事業者による医食同源・農福連携・健康長寿への取組支援及び円滑な事業展開を図るためのエリアマネジメント組織設立に向けた支援を実施する。						
効果発現年度	■当年度 ■後年度(令和7年度)						
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	11,216	11,993	12,687	12,583	12,531
		(b) 予算現額	11,216	11,993	12,687	12,583	15,323
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	0	2,792
		(d) 繰越額	0	0	0	0	0
		A. 計 (b+d)	11,216	11,993	12,687	12,583	15,323
	B. 執行済額		11,187	11,836	12,595	12,518	15,323
	うち交付金充当額		8,949	9,468	10,076	10,014	12,258
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		99.7%	98.7%	99.3%	99.5%	100.0%
予算の状況の説明		地権者への事業周知を目的とし、都市模型の制作のために9月補正にて2,792千円を増額した。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況				
				R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
	第一段階整備(循環型農業・体験農業ゾーン)の整備支援	目 標	()	()	()	(整備支援)	
		実 績				整備支援完了	
	第二段階及び第三段階整備に関する民間事業者による施設変更計画作成支援	目 標	()	()	()	(計画作成支援)	
		実 績				支援実施	
	第四段階整備に向けた事業計画の策定	目 標	()	()	()	(計画策定)	
		実 績				計画策定準備	
	達成状況説明	・第一段階整備支援完了 ・当初計画における第二段階と第三段階の一体的整備計画を見直し、各段階ごとの施設配置計画の策定を支援した。 ・第四段階整備の実現に向け、トライアル・サウンディングの実施にむけた事例収集および事業計画策定に向けた準備を実施。					
	成果目標 (指標) 及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値 (年度)	R4年度	R5年度	R6年度
民間事業者による第一段階整備(循環型農業・体験農業ゾーン)のバイオガス発電等の開始(仮稼働)		目 標	()	()	()	(仮稼働開始)	()
		実 績				仮稼働開始	
第二段階及び第三段階整備の実現に向けた施設変更計画の策定		目 標	()	()	()	(計画策定)	()
		実 績				策定継続	
第四段階整備の実現に向けた事業計画の策定		目 標	()	()	()	(計画策定)	()
		実 績				計画策定準備	
進捗状況説明		・第一段階(バイオガス発電)は令和6年11月13日より仮稼働開始(令和7年4月1日に本稼働予定) ・当初計画における第二段階と第三段階の一体的整備計画からの見直しを支援し、各段階ごとの施設配置計画については完了したが、建築費高騰に伴う施設規模の見直しが必要となり、今後も継続した策定支援が必要。 ・第四段階整備の実現に向け、トライアル・サウンディングを令和7年度実施に向けた準備が整った。					

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)													
取組の検証	【第一段階】 ・第一段階については計画どおり整備が完了し、本事業における成果は達成された。	【第二段階・第三段階】 ・第二段階および第三段階では、昨今の建築費高騰の影響で施設規模の見直しが進められている。この課題に対応するため、コスト削減策の導入に加え、事業スケジュールの柔軟な見直しや段階的な整備方針を検討し、持続可能な事業推進を図ることが求められる。													
	【第二段階・第三段階】 ・第二段階および第三段階については、昨今の建築費高騰に伴い施設規模の見直しが検討されたことから、引き続き事業者への支援が求められている。	【四段階以降】 ・第四段階以降は、計画策定から数年が経過し、社会情勢の変化や消費者ニーズの多様化に対応するため、新たな事業計画の策定が必要となっている。これに対応するため、最新の市場動向を踏まえた調査を実施し、柔軟な事業方針の見直しを進めることが求められる。													
	【四段階以降】 第四段階以降については、当初の計画から数年が経過し、社会情勢や消費者ニーズの変化に伴って、新たな事業計画の策定が求められている。														
	今後の取り組み方針														
【第二段階・第三段階】 第二段階および第三段階では、建築費高騰の影響を踏まえ、コスト最適化や段階的整備を軸に、資材調達の効率化や補助金の活用による財政負担の軽減を図るとともに、優先整備エリアの選定や柔軟なスケジュール管理を行い、無理のない形で事業を推進していく必要がある。															
【四段階以降】 第四段階以降では、当初の計画策定から数年が経過し、社会情勢や消費者ニーズに変化が見られる。今後、市場調査の実施や段階的な計画見直しを軸に、最新の市場動向を反映した新たな事業計画の策定が求められるため、地域や消費者ニーズに適応した計画を構築し、事業の推進を図る必要がある。															
資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)															
<table><tr><th rowspan="2">総事業費</th><th rowspan="2">交付対象事業費</th><th colspan="2">交付金充当額</th><th rowspan="2">交付対象外経費</th></tr><tr><th>交付金</th><th>市町村負担金</th></tr><tr><td>15,323</td><td>15,323</td><td>12,258</td><td>3,065</td><td>0</td></tr></table> 北中城村 15,323千円 → 委託料 15,323千円 → オリエンタルコンサルタンツ 15,323千円 (農を活かした健康・福祉の里づくり 推進事業業務委託)				総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費	交付金	市町村負担金	15,323	15,323	12,258	3,065	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額				交付対象外経費									
		交付金	市町村負担金												
15,323	15,323	12,258	3,065	0											
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明												
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業務についてはプロポーザルを実施。村契約規則に則り契約を行っており妥当であると考え。 ○予算規模は、事前に見積り等を踏まえ積算しており、妥当であったと判断する。 ○費目や使途については、完了時に検査を実施しており、目的に即し必要であったと判断する。												
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。													
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。													
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。													

市町村名	北中城村							
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	5-①	総合英会話指導支援事業		新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-5-(3)-ア			
担当部課名	教育総務課	事業実施 (予定)年度	平成24～令和13年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	国際感覚を身に付ける教育の 推進			
事業内容	外国語教育の充実と国際性豊かな人材育成を図るため、児童生徒の英会話への興味・関心を高められるよう、村立小中学校に英語を母国語とする外国人や英会話能力の優れた講師を英会話指導員として配置する。							
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)							
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他()							
予算額・ 執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度		
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	9,182	9,110	9,119	9,039	9,827	
		(b)予算現額	8,053	7,479	7,901	7,778	10,326	
		(c)増減額(b-a)	▲ 1,129	▲ 1,631	▲ 1,218	▲ 1,261	499	
		(d)繰越額	0	0	0	0	0	
		A. 計(b+d)	8,053	7,479	7,901	7,778	10,326	
	B. 執行済額		8053	6624	6,664	7,591	9,366	
	うち交付金充当額		6,442	5,928	5,331	6,072	7,492	
	次年度繰越額		0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)		100.0%	88.6%	84.3%	97.6%	90.7%	
予算の状況の説明		給与等の改定を見込み、交付金対象事業費499千円の増額を行ったが、長期休暇などの対象外経費分を捕捉できず、960千円の執行残となった。						
活動目標 (指標) 及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況					
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度		
	英会話指導員の配置 (小学校:1人、中学校:1人、幼小兼務:1人)		目 標	(3人)	(3人)	(3人)	(3人)	
			実 績	3人	3人	3人	3人	
達成 状 況 説 明		年度当初から小中学校すべてに指導員を配置でき、円滑に事業を実施することができた。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R6成果目標(指標)			基準値 (年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値 (年度)
	英語検定の受検者数		目 標	()	(258人)	(249人)	(237人)	()
			実 績		189人	193人	193人	
	アンケートにより英会話が楽しいと感じる割合		目 標	()	()	(80%以上)	(80%以上)	()
			実 績			94.2%	90.2%	
	進捗 状 況 説 明		・昨年度と同数の英語検定受験者数で、目標値の81.4%となり、目標を達成することができなかった。 ・児童生徒へのアンケート結果において、小学5年生の85.2%、小学6年生の90%、中学1・2年生の95.4%が「英語の授業を楽しい」と回答している。また、小学生の97.0%、中学生の98.5%が「外国人と会話してみたい」「英検等を受検してみたい」など英語に関して何らかの意欲が高まると答えており、英会話指導員とのチームティーチングで英語の授業を行うことにより、英語に対するモチベーションが高まり、興味関心が高まっている。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・継続的にネイティブスピーカーによる生きた英語を体験することで、「ALTとの英語の授業が楽しいと感じる」生徒が中学生においては、95.4%となり、英語への興味関心の高さは維持できている。また、英語検定に関する周知は行っているが、基礎知識の定着が低くなっていることが自己肯定感の低下に繋がっており、受検意欲も低下し、受検者数が昨年度と同人数となっている。 ・小学生では「英語の授業が楽しいと感じる」児童は87.6%となっており、一昨年度、昨年度よりも若干減少している。また、「昨年度に比べて英語が好きになったと思う」児童は86.4%となっており、昨年度の87.6%から若干減っているが関心興味の高さは維持されている。昨年度より成功体験を増やし英語への興味関心が高まるきっかけになるよう、英検Jrを全6年生に対し実施しており、「もっと英語を話せるようになりたい」と93%が回答している。	・英語担当教諭と英会話指導員が、指導方法等についての意見交換や情報交換を行うことが個々の指導力の向上に繋がることから、引き続き、情報交換等の時間を明確に確保するよう促す。 ・外国語教育の方向性や指導方法について、学習指導要領をもとに共通理解を促し、英会話指導員の資質と授業力の向上を図り、興味関心を惹きつける授業展開や英語に親しませる授業により、更に興味・関心の向上に努める。
今後の取り組み方針		
・英語担当教諭と英会話指導員の授業の質的向上を目的とした研修会を実施することで、授業改善に取り組み、児童生徒の英語力向上に努める。 ・指導主事による英会話指導員の授業参観及び指導助言を通して、英会話指導員の指導力向上を図り、小中で連携した英語教育を推進していく。 ・英語担当教諭と英会話指導員の声かけにより英語学習に対する意欲を高め、英語検定、英検Jrの受検者数の更なる増加に取り組む。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>11,771</td><td>9,366</td><td>7,492</td><td>1,874</td><td>2,405</td></tr> </tbody> </table> 北中城村 9,366千円 報酬 6,535千円 英会話指導員(北中城小学校・島袋小学校兼幼稚園・北中城中学校 各1名) ほか、夏休み等に係る対象外経費:1,738千円 職員手当等 2,519千円 英会話指導員(北中城小学校・島袋小学校兼幼稚園・北中城中学校 各1名) ほか、夏休み等に係る対象外経費:653千円 旅費 312千円 英会話指導員(北中城小学校・島袋小学校兼幼稚園・北中城中学校 各1名) ほか、夏休み等に係る対象外経費:14千円					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	11,771	9,366	7,492	1,874	2,405
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
11,771	9,366	7,492	1,874	2,405										
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○指導員は英語を母国語とする外国人を積極的に採用し、面談や学校への聞き取りを通して指導力等を判断しているため妥当であると考える。 ○予算規模については、村規則等に基づき積算しており妥当であったと考える。 ○費用・使途は事業目的に即したものであり適切であった。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	北中城村						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-②	国際人材育成事業			新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-5-(3)-ア	
担当部課名	生涯学習課	事業実施 (予定)年度	平成24～令和13年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	国際感覚を身に付ける教育の 推進	
事業内容	英会話力、英作文力、英文読解力の向上を図るため、IT機器を活用し、英語検定4級、3級に対応した英語講座を実施する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・ 執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	5,529	5,529	5,557	7,183	7,920
		(b)予算現額	5,762	5,529	7,183	7,183	7,920
		(c)増減額(b-a)	233	0	1,626	0	0
		(d)繰越額	0	0	0	0	0
		A. 計(b+d)	5,762	5,529	7,183	7,183	7,920
		B. 執行済額	5,620	5,531	5,986	7,316	6,698
		うち交付金充当額	4,495	4,424	4,788	5,852	5,358
		次年度繰越額	0	0	0	0	0
		執行率(%) (B/A)	97.5%	100.0%	83.3%	101.9%	84.6%
	予算の状況の説明	プロポーザル時に提案の有った受講者について、定員に満たなかった分を精算したため、1,222千円の不用が発生した。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	前期受講者数	目 標	()	()	()	(30)	
		実 績				9	
	後期受講者数	目 標	()	()	()	(30)	
		実 績				5	
達成 状 況 説 明	年3回実施される準会場での英語検定試験では、第一回が最も受講希望者が多いが、受講者を募集・実施する期間が短く対応できず、第二回以降は減少傾向にあったこともあり、応募者が定員に達しなかった。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値 (年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値 (年度)
	受講者の英語検定4級及び3級取得率70%以上	目 標	()	()	()	(前期:9名中5名 後期:5名中4名)	()
		実 績				64%	
	進捗 状 況 説 明	R6年度より人材育成事業における成果として、ネイティブスピーカーとの交流を通じた英語向上や国際性に富む人材育成の目標をそのままに、英語検定取得によるキャリア形成について目標を変更した。					

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	受講者確保に向け、講座時間や場所、時期など調査し英語検定合格に間に合わせるようなスケジュールを組む必要がある。	英検対策講座については、短期集中的な開催により部活動や他習い事と被らない時間の設定について検討する。また体験活動については、学んだ英語を実際に活用できるようになる楽しさを伝える方法を検討する。
今後の取り組み方針		
英語が身近にある沖縄の特殊性を活用した人材の育成に向け、学んだことを即活用しながら、国ごとに違う文化を体験できる事業として継続するほか、受講者数確保にむけた時間や場所、周知を学校と連携しながら実施していく。		

資金の流れ														
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>6,698</td><td>6,698</td><td>5,358</td><td>1,340</td><td>0</td></tr> </table> 北中城村 6,698千円 委託料 6,698千円 HelloWorld株式会社 6,698千円 ・英検対策講座 ・英語体験活動					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	6,698	6,698	5,358	1,340	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
6,698	6,698	5,358	1,340	0										
資金の流 れ、費 目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業務についてはプロポーザルを実施。村契約規則に則り契約を行っており妥当であると考える。 ○各講座に係る費用以外に英語検定受験料は各自受講生の負担とし、提案時の受講者数に満たない分は精算を行った。 ○費目や使途については、完了時に検査を実施しており、目的に即し必要であったと判断する。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	北中城村						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-③	海外移住者子弟研修生受入事業		新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-4-(2)-ア		
担当部課名	総務課	事業実施 (予定)年度	平成24～令和13年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	交流基盤としてのウチナーネッ トワークの継承・発展		
事業内容	海外と本村を結ぶ懸け橋となる人材育成を図るため、南米3カ国(ペルー、アルゼンチン、ブラジル)から研修生の受入れを実施する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 ■委託 ■補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	3,005	2,643	2,643	3,025	3,114
		(b)予算現額	0	0	0	3,025	2,819
		(c)増減額(b-a)	▲3,005	▲2,643	▲2,643	0	▲295
		(d)繰越額	0	0	0	0	0
		A.計(b+d)	0	0	0	3,025	2,819
		B.執行済額	0	0	0	2,882	2,819
		うち交付金充当額	0	0	0	2,305	2,254
		次年度繰越額	0	0	0	0	0
		執行率(%) (B/A)	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	95.3%	100.0%
	予算の状況の説明	・旅費(渡航費)の増額や報償費、離島研修旅費、需用費等の減額により295千円の減額を行った。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	海外子弟研修生受入人数	目 標	()	()	(3 人)	(3 人)	
		実 績			3 人	3 人	
	研修報告会	目 標	()	()	(1 回)	(1 回)	
		実 績			1 回	1 回	
達成 状 況 説 明	・海外移住者子弟研修生について、南米3カ国の村人会と連携を図り、計画通り3名を受け入れた。研修を通じてホームステイや日本語研修、伝統文化研修により沖縄の文化・習慣を体験することができた。 ・村主催のまつりへの出演や出身地の伝統芸能活動への参加を行った。また、世界のウチナーンチュの日の関連事業として地域住民に対し研修生の出身地の紹介を行うなど、地域との交流も行うことができた。 ※令和3年度～令和4年度については、新型コロナウイルス感染症の影響により事業中止。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値 (年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値 (年度)
	受け入れた研修生が、沖縄の文化や歴史により興味を持ったか(80%)を含め、アンケートで本事業のあり方を検証する。	目 標	()	()	(80 %)	(80 %)	()
		実 績			100%	100%	
	進 捗 状 況 説 明	研修生に研修先の歴史等に興味を持ったか等のアンケートをした結果、興味を持ったとの回答が100%となり、成果目標を達成することができた。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	・南米3カ国の村人会と研修生の来日前から連携を取り、研修(日本語や三線の文化研修)をスムーズに行えるよう研修生に事前学習を依頼した。 ・研修生によって日本語の習熟度に差があり、受入家庭や研修講師等の関係者との意思疎通が難しい面があったことが課題である。 ・研修生として来日するにあたり、仕事の退職・休職、学生の場合は休学をするという負担があることから、本事業に対する応募者の幅を広げるために、令和6年度の研修期間を例年の3ヵ月から2ヵ月へと変更した。	・研修期間を2ヵ月間に短縮したことにより研修内容の習得期間が短くなったことから、来沖前の事前学習がより重要となるため研修生の来日前の事前学習について各国村人会との連携をより密接に行っていく必要がある。 ・研修の充実度を上げるため、研修の意義を理解の上で研修に臨むことができるよう引き続き各国村人会と連携をとる必要がある。 ・受入家庭の負担軽減を図るため、要望・意見を取り入れやすい体制を整備する。
今後の取り組み方針		
・各国村人会への依頼及び連携の結果、日本語や三線等についてある程度の事前学習がされているように見られる。研修がより充実したものとなるよう、日本語や文化研修の基礎的な学習について引き続き各国村人会と調整を行う。 ・当面の間は研修期間を2ヵ月間とし、適当な研修期間について引き続き検討を行っていく。 ・本事業の周知を図るため、前年度に引き続き研修生の情報や活動内容を広報へ掲載している。村民の目に触れやすい広報掲載を行うことで本事業の周知が図れていると思うので記事掲載を引き続き行う。		

資金の流れ				
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
		総事業費	交付対象事業費	交付対象外経費
		2,819	2,819	0
北中城村 2,819千円	報償費 120千円 個人(4名) 120千円 〔文化研修講師謝礼金〕			
	旅費 1,814千円 (株)リウボウ旅行サービス 1,765千円 海外移住者子弟研修生(3名) 49千円 〔海外移住者子弟研修生渡航費〕 〔県内離島研修費用弁償〕			
	需用費 7千円 〔A4用紙等〕			
	役務費 45千円 〔損害保険料、通信運搬費〕			
	委託費 293千円 〔日本語教育委託料〕			
	補助金 540千円 海外移住者子弟研修生(3名) 540千円 〔海外移住者子弟研修生受入補助金〕			
資金の流 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明	
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○研修生について、村及び各村人会で面接等により選抜しており、妥当であったと判断する。 ○不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。 ○研修生に対し、研修に必要な費用(滞在費・旅費等)を補助対象としており、負担関係は妥当であったと考える。 ○使途について、精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。	
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。		
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。		
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名	北中城村						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	6-②	米国統治下の北中城村実態調査事業		新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-1-(4)-ア		
担当部課名	生涯学習課	事業実施 (予定)年度	令和4年度～令和8年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	沖縄文化の継承・発展・普及	
事業内容	米国統治下における本村の歴史的経過(集落復興、村行政の歩み、教育、産業、軍用地施設など)を明らかにするため、各種調査を実施する。						
効果発現年度	■当年度 ■後年度(R9年度)						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)			R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	6,037	10,609	3,745		
		(b) 予算現額	2,935	7,060	3,897		
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 3,102	▲ 3,549	152		
		(d) 繰越額	0	0	0		
		A. 計 (b+d)	2,935	7,060	3,897		
	B. 執行済額		2,933	7,022	3,897		
	うち交付金充当額		2,346	5,617	3,117		
	次年度繰越額		0	0	0		
	執行率 (%) (B/A)		99.9%	99.5%	100.0%		
予算の状況の説明		事業費の増は、会計年度任用職員の人事院勧告に伴う給与改定によるものである。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況				
			R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
	村関連資料の整理	目 標	(実施)	(実施)	(実施)	()	
		実 績	実施	実施	実施		
	住民保管資料の収集及びデータ化	目 標	()	()	(実施)	()	
		実 績			実施		
	原稿作成	目 標	()	()	(実施)	()	
実 績				実施			
達成状況説明	・村関連資料の整理として、村役場書庫保管の行政文書の収集・整理・目録作成・データ化などを実施した。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値 (年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値 (R9年度)
	村関連資料のデータ化	目 標	()	()	(4件)	(2課)	()
		実 績			4件	4課	
	住民保管資料の収集及びデータ化	目 標	()	()	()	(3集落)	()
		実 績				3集落	
	原稿作成	目 標	()	()	()	(2課)	()
		実 績				0課	
【参考指標】 R9年度成果目標:利用者アンケート:村の歴史に対する理解が深まった:80%以上	目 標	()	()	()	()	(80%以上)	
進捗状況説明	・村役場書庫保管行政文書及び住民所有資料の収集・整理・目録作成・データ化などを計画通り目標達成した。 ・原稿作成については、作業に着手したものの検討事項が生じたため作業を中止し目標未達成となった。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・原稿作成について、最終的に冊子としてまとめるという観点から、冊子の項目構成を先に検討する方が良いと判断し作業を中止したため、成果目標を達成することができなかった。	・課ごとまたは住民から収集した各種データを、冊子の項目構成・トピックごとに分類・整理する必要がある。
今後の取り組み方針		
・分類・整理したデータをもとに冊子の項目構成案を作成したうえで、それぞれの内容に対応させる形で原稿執筆を進めていく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>3,897</td><td>3,897</td><td>3,117</td><td>780</td><td>0</td></tr> </table> 北中城村 3,897千円 報酬 2,797千円 〔 会計年度任用職員(1名) 〕 期末手当 583千円 〔 会計年度任用職員(1名) 〕 勤勉手当 489千円 〔 会計年度任用職員(1名) 〕 費用弁償 28千円 〔 会計年度任用職員(1名) 〕					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	3,897	3,897	3,117	780	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
3,897	3,897	3,117	780	0										
資金 使途の 流れ、 点検、 費目・ 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	—	支出先の選定方法は妥当か。	○人件費について、業務遂行に必要な人数を村規則に則って任用しているため、予算規模は適正であったと考えている。 ○費目、使途については業務日誌等を実績報告段階で確認しており、事業目的に即していたと考えている。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	北中城村							
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	7-①	特別支援教育支援員配置事業			新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-5-(2)-エ		
担当部課名	教育総務課	事業実施 (予定)年度	平成25～令和13年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	時代の変化に対応する魅力ある学校づくりの推進		
事業内容	障害等による特別な支援を要する児童生徒について、学校生活や学習上の困難の改善を図るため、村立幼稚園、小学校、中学校に特別支援教育支援員を配置する。							
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)							
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	42,151	44,627	48,070	48,451	57,313	
		(b)予算現額	39,331	40,265	42,801	42,815	61,395	
		(c)増減額(b-a)	▲ 2,820	▲ 4,362	▲ 5,269	▲ 5,636	4,082	
		(d)繰越額	0	0	0	0	0	
		A. 計(b+d)	39,331	40,265	42,801	42,815	61,395	
	B. 執行済額		39,331	39,965	42,040	43,288	55,582	
	うち交付金充当額		31,464	31,971	33,631	34,629	44,465	
	次年度繰越額		0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)		100.0%	99.3%	98.2%	101.1%	90.5%	
予算の状況の説明		給与等の改定を見込み、交付金対象事業費4,082千円の増額を行ったが、長期休暇などの対象外経費分を捕捉できず、5,813千円の執行残となった。						
活動目標 (指標) 及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況					
				R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	特別支援教育支援員の配置		目 標	小学校:10人 (中学校:4人) 幼稚園:4人	小学校:11人 (中学校:4人) 幼稚園:4人	小学校:11人 (中学校:4人) 幼稚園:4人	小学校:11人 (中学校:4人) 幼稚園:4人	
			実 績	小学校:11人 中学校:4人 幼稚園:4人	小学校:11人 中学校:4人 幼稚園:4人	小学校:11人 中学校:4人 幼稚園:4人	小学校:11人 中学校:4人 幼稚園:4人	
達成 状 況 説 明	年度当初から目標とする支援員数を配置できた。途中退職が生じたが、年度途中で補うことができたことから概ね円滑に事業を実施することができた。							
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R6成果目標(指標)			基準値 (年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値 (年度)
	支援員に対する満足度(80%以上)を含め、対象となる児童生徒の保護者へのアンケート調査により、本事業のニーズ・課題の把握を行う		目 標	()	(80%以上)	(80%以上)	(80%以上)	()
			実 績		93.1%	90.7%	89.0%	
	進捗 状 況 説 明	年度末(3月)に、保護者63名から得られたアンケート調査結果では、保護者の支援員に対する満足度は89%であった。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・当初の目標値満たす支援員を配置し、きめ細かな支援を行ったことで、保護者アンケートで「支援員に対する満足度」は89%となった。 ・保護者へのアンケートで「支援員の支援により子どもに変化があった」との回答が81%いることや、「生徒本人のペースに合わせた見守りによって個性が伸びている。」などの意見があり、個々に応じた支援ができ、学校生活や学習上の困難の改善が図られている。	・支援を要する幼児児童生徒の人数が年々増加しており、保護者からも「人員がもう少し充実してほしい」という要望もあるが、支援員の数も限られているため、更なる効率的な活用に努める。 ・個々の支援内容の複雑化に対応し、対象児童等が安心して学校生活を送れるよう、児童生徒の現状把握を行い、学級担任等や保護者及び関係機関が連携することで、個々に適した支援を行える体制を構築する。 ・引き続き、保護者の多様なニーズに対応するため、具体的な関わり方の理解を深めたり、個々の特性や多様な障がいなどに対する支援方法について知識を共有することで、支援員ごとの支援の偏りや差をなくし、支援に一貫性を持たせ、支援の質の向上を図る。
今後の取り組み方針		
・教育委員会主催での研修会を実施し、障がいに対する特性を学び、支援員の資質向上に努めた。引き続き、更なる質の向上を図る。 ・学級担任等が作成する「個別的教育支援と指導計画」を共有及び活用し、今後も、個々に適した支援体制を強化し支援の充実を図る。 ・学校内や学校間において、支援員同士の情報共有の場を確保することで支援方法のスキルアップを図り人材育成に取り組む。 ・引き続き、三者面談や授業参観時などに保護者と支援員が積極的に情報共有できる機会を設ける。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>57,908</td><td>55,582</td><td>44,465</td><td>11,117</td><td>2,326</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	57,908	55,582	44,465	11,117	2,326
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
57,908	55,582	44,465	11,117	2,326										
北中城村 55,582千円 報酬 39,707千円 特別支援教育支援員 (北中城小学校7名・島袋小学校4名・北中城中学校4名・北中城幼稚園4名) ほか、夏休み等に係る対象外経費:1,598千円 職員手当等 15,172千円 特別支援教育支援員 (北中城小学校7名・島袋小学校4名・北中城中学校4名・北中城幼稚園4名) ほか、夏休み等に係る対象外経費:720千円 旅費 703千円 特別支援教育支援員 (北中城小学校7名・島袋小学校4名・北中城中学校4名・北中城幼稚園4名) ほか、夏休み等に係る対象外経費:8千円														
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支援員は、面接を経て、経験や業務に対する意欲がある者を採用しており、妥当であると判断する。 ○予算規模については、村規則等に基づき積算しており妥当であったと判断する。 ○児童生徒が不在の長期休業期間等は対象外経費としており、費目や使途は事業目的に即したものであると判断する。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	北中城村						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	7-②	学習支援員配置事業			新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-5-(2)-ア	
担当部課名	教育総務課	事業実施 (予定)年度	平成27～令和13年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	確かな学力を身につける学校教育の充実		
					Ⅲ-3-(1)		
事業内容	学習の遅れがちな児童生徒に対し基礎的・基本的知識や技能の習得に向けた支援を行うため、村立小中学校に学習支援員を配置する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	7,313	7,789	7,906	7,860	9,277
		(b)予算現額	7,105	6,490	5,400	7,860	9,277
		(c)増減額(b-a)	▲ 208	▲ 1,299	▲ 2,506	0	0
		(d)繰越額	0	0	0	0	0
		A. 計(b+d)	7,105	6,490	5,400	7,860	9,277
		B. 執行済額	7,105	6,293	5,179	7,432	7,902
		うち交付金充当額	5,684	5,034	4,142	5,945	6,321
		次年度繰越額	0	0	0	0	0
		執行率(%) (B/A)	100.0%	97.0%	95.9%	94.6%	85.2%
	予算の状況の説明	勤務実績により不用額が1,375千円となった。不用額については、年度途中で退職の発生、産前産後休取得者の執行残である。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	学習支援員の配置	目 標	(小学校:2人 中学校:1人)	(小学校:2人 中学校:1人)	(小学校:2人 中学校:1人)	(小学校:2人 中学校:1人)	
		実 績	小学校:2人 中学校:1人	小学校:2人 中学校:1人	小学校:2人 中学校:1人	小学校:2人 中学校:1人	
達成 状 況 説 明	年度当初から小中学校すべてに学習支援員を配置でき、中途退職もあったが、職員補充もでき円滑に事業を実施することができた。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値 (年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値 (年度)
	沖縄県学力到達度調査における平均正答率 30%未満の割合の減少	目 標	()	(小5算数 18.6%以下 中2数学 28.5%以下)	(小5算数 19.6%以下 中2数学 32.3%以下)	(小5算数 21.9%以下 中2数学 41.6%以下)	()
		実 績		小5算数:20.1% 中2数学:51.0%	小5算数:14.0% 中2数学:52.5%	小5算数43.7% 中2数学:64.8%	
	沖縄県学力到達度調査における無答率の割合の減少	目 標	()	(小5算数 7.0%以下 中2数学 8.2%以下)	(小5算数 8.2%以下 中2数学 8.7%以下)	(小5算数 9.8%以下 中2数学 11.6%以下)	()
		実 績		小5算数:11.1% 中2数学:18.5%	小5算数:6.5% 中2数学:16.2%	小5算数:17.1% 中2数学:17.4%	
	進捗 状 況 説 明	・小学校においては、平均正答率30%未満・無答率ともに目標値は未達成となった。 ・中学校においては、ともに達成できなかったが、無答率の県平均を下回っており、正答率30%未満の割合においても0.4%差となり一定の成果は得られている。 ・目標は未達成ではあるが、学習の遅れがちな児童生徒へ声かけや支援を行い、教師とのチームティーチングにより、丁寧に学習支援を実施した。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	・県学力到達度調査(算数、数学)で、小学校、中学校ともに目標値は未達成となったが、中学校においては、県平均を下回る指標もあり、一定の成果が得られていると考える。昨年と同様に、長文問題や記述式領域に課題があることに加え、図形領域も課題となっていることが、達成できなかった一因として考えられる。 ・小学校では、昨年度以上に正答率30%未満の割合が高くなっており、全体的に成績が落ち込んでいる。前年度に比べて出題範囲が広がったことが一つの要因と考えられるが、より一層の基礎学力定着が求められる。	・引き続き、成績下位層の底上げのため、継続して追調査及び形成評価を行い、支援対象の児童生徒のつまづきや支援内容の定着状況を把握し、育ちを検証していくことが有用と考えられる。 ・これまで以上に研修や教材研究の充実を図り、授業改善を行うことで、「確かな学力」の向上を図る必要がある。 ・学習支援員のより良い人材確保のため、公募に当たっては、教員免許所持者や退職教員などへ教育委員会から直接、声かけを行うなど、積極的な人材確保に努める。
今後の取り組み方針		
・引き続き、全ての村立小中学校に学習支援員の配置を行い、学力の向上を図っていく。 ・学力向上のために、教員と学習支援員のチームティーチングによる授業力向上及び連携強化等の研修を行い、より質の高い授業が展開できるようにする。 ・放課後の補修や休み時間での補修などを実施し、個々のつまづきに丁寧に支援を行う個別支援を強化することで、成績下位層の底上げを図る。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)						
		総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
		8,743	7,902	6,321	1,581	841
北中城村 7,902千円		報酬 5,707千円		〔 学習支援員(北中城小学校・島袋小学校・北中城中学校 各1名) 〕		
		〔 ほか、夏休み等に係る対象外経費:635千円 〕				
		職員手当等 2,079千円		〔 学習支援員(北中城小学校・島袋小学校・北中城中学校 各1名) 〕		
		〔 ほか、夏休み等に係る対象外経費:204千円 〕				
		旅費 116千円		〔 学習支援員(北中城小学校・島袋小学校・北中城中学校 各1名) 〕		
〔 ほか、夏休み等に係る対象外経費:2千円 〕						
資金の 使途の 流れ、 点検 ・ 費目 ・ 評価	評価	点 検 項 目			評価に関する説明	
	○	支出先の選定方法は妥当か。			○支援員は、教員免許を有している者を面接を経て採用しており、妥当であったと判断する。 ○予算規模については、村規則等に則り積算しており、妥当であったと考える。 ○児童生徒が不在の長期休業期間等は対象外経費としており、費目及び使途は事業目的に即したものであると判断する。	
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。				
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。				
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。				

市町村名	北中城村						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	7-③	児童生徒の県外派遣旅費等支援事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-(1)-ウ	
担当部課名	教育総務課	事業実施(予定)年度	平成29～令和13年度		沖縄振興基本方針該当箇所	公平な教育機会の確保と学習環境の充実	
事業内容	県外大会への参加を全児童生徒に等しく機会を与え、児童生徒の視野を広げるため、学校教育の一環として派遣されるものに対し、派遣費用を補助する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	□直接実施 □委託 ■補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	2,440	3,450	3,450	3,450	2,065
		(b)予算現額	350	3,450	1,605	620	500
		(c)増減額(b-a)	▲2,090	0	▲1,845	▲2,830	▲1,565
		(d)繰越額	0	0	0	0	0
		A. 計(b+d)	350	3,450	1,605	620	500
	B. 執行済額		332	1786	707	304	66
	うち交付金充当額		265	1,428	565	243	52
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		94.9%	51.8%	44.0%	49.0%	13.2%
予算の状況の説明		個人種目や少人数の団体種目であった、派遣者数が当初の見込み数を下回ったため、当初予算から1,565千円減額し、更に2～3月の大会において派遣が期待されていた団体の派遣が無かったため、434千円の不用額が生じた。					
活動目標(指標)及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	県外への派遣団体数	目 標	(8団体)	(8団体)	(8団体)	(9団体)	
		実 績	7団体	4団体	5団体	5団体	
達成状況説明	目標には届かなかったが、九州大会3団体、全国大会2団体、延べ5人の児童・生徒を県代表として派遣することの支援ができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)
	派遣された児童生徒の視野が広がったか保護者に対するアンケート	目 標	(80%以上)	(80%以上)	(80%以上)	(80%以上)	()
		実 績		94.3%	91.3%	80.0%	
	進捗状況説明	・大会派遣後の児童生徒の様子について、80%の保護者(5人中4人)が、「視野が広がった」「積極的になった」など意欲が高まっていると回答し、目標を達成することができた。 ・学習意欲についても、「あまり変わらない・やる事はやる子」と答える保護者がいるものの、86.4%が「向上している」と答えており、部活動での県外大会への参加が学習面においてもモチベーションの向上に寄与していることが確認でき、児童生徒にとって効果が高い事業であると考える。 ・その他自主性の高まりや精神面の成長、目標を実現するために努力をするなどの報告があった。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・学校と連携して補助対象の児童・生徒の把握に努めたことで対象者全員へ支援することができた。 ・県外へ派遣される際の航空運賃を補助することにより、県外の大会に参加し他の都道府県の児童生徒との競争・交流で刺激をうけ、視野を広げるという目標が達成されたと考えられる。 ・「遠征費が高額なので補助があり大変助かっている。」「高いレベルでの緊張感がある大会において、生徒自身が限界に挑戦できたことが良い経験になった。高みに挑戦するという経験は大人になっても生かされる。」とのコメントがあった。	・本制度の周知と学校と密に連携をとることでうまく事業を推進できているので、改善の必要はないものと考えられ、引き続き連携を取りながら迅速に給付できるよう実施する。 ・引き続き、補助を行うことで、児童生徒の意欲向上、健全育成及び人材育成につながることが期待される。
今後の取り組み方針		
・北中城村の児童生徒が県外派遣により精神的に成長することで、人材育成に寄与するものであり、引き続き、補助対象の児童・生徒全員への支援に取り組む。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)																
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">総事業費</th><th rowspan="2">交付対象事業費</th><th colspan="2">交付金充当額</th><th rowspan="2">交付対象外経費</th></tr> <tr> <th>交付金</th><th>市町村負担金</th></tr> <tr> <td>351</td><td>66</td><td>52</td><td>14</td><td>285</td></tr> </table> 北中城村 66千円 補助金 66千円 中学校 5団体 66千円 県外派遣補助金 ほか、村負担分(対象外経費):285千円					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費	交付金	市町村負担金	351	66	52	14	285
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費												
		交付金	市町村負担金													
351	66	52	14	285												
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明													
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○補助先への交付決定は、小中学生の県外等派遣に関する補助金交付規程に則り行っており、妥当であると考え る。 ○予算規模は村の規定に基づき適正な規模であった。 ○受益者負担額を1/2としており、負担割合は妥当である と考える。 ○費目・使途については、実績報告等で確認・精査しており、事業目的に即した必要なものであると判断する。													
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。														
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。														
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。														

市町村名	北中城村						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	7-④	小中学生県外派遣支援(社会教育関連)事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-(1)-ウ	
担当部課名	生涯学習課	事業実施(予定)年度	平成29年～令和13年		沖縄振興基本方針該当箇所	公平な教育機会の確保と学習環境の充実	
事業内容	村に在住する子ども達に対して等しく県外大会に参加する機会を与えることで子ども達の視野を広げるため、村・県を代表して派遣されるスポーツ・文化活動に対して航空運賃を補助する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	□直接実施 □委託 ■補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	950	950	950	950	500
		(b)予算現額	9	100	950	950	500
		(c)増減額(b-a)	▲941	▲850	0	0	0
		(d)繰越額	0	0	0	0	0
		A.計(b+d)	9	100	950	950	500
	B.執行済額		9	100	454	444	461
	うち交付金充当額		7	80	363	355	369
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	47.8%	46.7%	92.2%
予算の状況の説明		・予算執行については、ほぼ計画通りに実施できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	・県外大会への派遣者数		目 標 (50人)	(50人)	(50人)	(50人)	
			実 績	11人	47人	43人	46人
達成状況説明		活動目標は下回ったものの、46人の派遣を行っており、概ね目標は達成されている。					
成果目標(指標)及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)
	派遣された児童の視野が広がったか(80%以上)を含め、保護者に対するアンケート調査により、本事業のあり方について顕彰する。		目 標 ()	(80%)	(80%)	(80%)	()
			実 績	85%	86%	80%	
	進捗状況説明		・大会派遣後のアンケート質問1の事業の意義について、保護者46人中38人、82.6%がとても有意義であるとの回答があった。有意義であると回答したものを含めると100%となる。質問2の派遣後の様子については「視野が広がった」80.2%「目標を高く持つようになった」との回答が71.7%となっていることから目標は達成されている。				

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	(派遣費補助について) ・派遣費の補助については 38人の保護者が「とても有意義であった」。8人の保護者が「有意義であった」と報告しており、今後も継続して実施して行く方針である。 (派遣後の変化) ・派遣後の子ども達の状況において「何事にも積極的になった」「目標を高く持つようになった」との回答が多く参加者の成長がみられる。	・大会派遣補助金の申請が大会終了後から半年以内となっているが、速やかな報告を促していくように周知する必要がある。
今後の取り組み方針		
・ある程度の周知はされてきているので大会参加前の調整や、大会派遣後の実績報告を速やかに行っていただき、確実に交付できるように周知していく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>922</td><td>461</td><td>369</td><td>92</td><td>461</td></tr> </table> 北中城村 461千円 補助金461千円 申請者 461千円 (34件) [県外派遣費補助金] [ほか、村負担分(対象外経費)461千円]					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	922	461	369	92	461
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
922	461	369	92	461										
資金の 使途の 流れ 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○補助先は、要綱等に則り交付決定を行っており、妥当である。 ○予算規模は適正である。 ○航空運賃の上限を超える額やその他の費用は受益者負担となっており、負担割合は妥当である。 ○費目・使途については、実績報告で確認・精査しており、事業費目的に即した必要なものであると判断する。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	北中城村						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	8-①	屋宜原地区避難道路整備事業			新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-2-(4)-イ	
担当部課名	建設課	事業実施 (予定)年度	令和4年～令和6年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	大規模災害等に備えた強くしなやかな県土づくりの推進 Ⅲ-10-(3)	
事業内容	北中城村の大型宿泊施設等へのアクセス道路である仲順屋宜原線について災害時の村民や観光客の安全を確保し、災害に強い避難道路を築造するための予備設計として、道路線形検討、道路付帯構造物の検討を実施し、道路整備を検討する。						
効果発現年度	■当年度 ■後年度(9年度)						
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	4,000	21,164	11,220		
		(b)予算現額	4,000	21,164	12,683		
		(c)増減額(b-a)	0	0	1,463		
		(d)繰越額	0	0	0		
		A.計(b+d)	4,000	21,164	12,683		
		B.執行済額	3,850	20,504	11,704		
		うち交付金充当額	3,080	16,403	9,363		
		次年度繰越額	0	0	0		
		執行率(%) (B/A)	96.3%	96.9%	92.3%		
	予算の状況の説明	不用額979千円は、入札残及び数量増減による変更契約によるものである。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況				
			R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
	実測図を用いた道路改良範囲の決定	目 標	()	()	(L=240m 検討)	()	
		実 績			L=240m 完了		
	達成 状況 説明	現地測量による実測図により道路改良範囲の検討を実施し、完了した。					
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値 (年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値 (R9年度)
	実測図を用いた道路改良範囲の決定の完了	目 標	()	()	()	(決定)	()
		実 績				決定	
	【R9成果目標】 住民アンケート:整備した避難道路について、 安心安全に利用できると答えた割合(80%以上)	目 標	()	()	()	()	(80%以上)
		実 績					
		進捗 状況 説明	実測図を用いた道路改良範囲の検討を実施し、改良範囲について決定した。				

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	R4年度から実施している避難路予備設計について、必要な区間において実施することができた。道路区間の改良に伴い、一部用地買収も伴うことから、継続して自治会、地権者との調整を行い進めて行く必要がある。	令和7年度においても、地権者、自治会への説明も継続して実施し、より利用しやすい道路整備を検討していく必要がある。
今後の取り組み方針		
R4年度から実施している避難路予備設計について、必要な区間において実施することができた。今後は、他事業(社会資本整備総合交付金、交通安全補助(歩道設置))等を活用し、実施設計を行い、道路整備を推進していく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>11,704</td><td>11,704</td><td>9,363</td><td>2,341</td><td>0</td></tr></table> 北中城村 11,704千円 → 委託料 11,704千円 → 琉球建設コンサルタント株式会社 11,704千円 (村道仲順屋宜原線(喜舎場集落～あやかりの社区間)予備設計業務)					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	11,704	11,704	9,363	2,341	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
11,704	11,704	9,363	2,341	0										
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考える。 ○不用額は事業費の10%以内であったが適正な改定契約であったと判断する。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断する。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												